

私のカルテ

No 328

形成外科ってどんな治療をするの？



津島市民病院
形成外科副部長
飯島 由貴

時々、整形外科と間違われることがあります。形成外科と整形外科は、漢字は一字違いで発音が似ていて、共に、手足の怪我などの治療をするので間違えやすいと思います。

また、皮膚のできもの扱つため、皮膚科との違いを聞かれることもありま

す。皆さんは「形成外科(けいせいげか)」と聞いてどんな治療をしていると思いますか？

日本の形成外科は歴史が浅く、1956年に東京大学整形外科の中に形成外科特別診療班が設置されたのが始まりです。それ以前は、整形外科や皮膚科など、他の診療科が形成外科の手術を用いて治療をしていました。東京大学に設置後は、他大病院、国公立病院、私立病院にも設置されましたが、「所属は○○科で形成外科を担当しています」、「専門は□□科ですが形成外科診療もついでです」という状態でした。1997

5年に標榜科ひょうぼうかとして認められると、各科で形成外科を担当していた医師は、所属科の専門知識を持って形成外科医として独立していきました。ですので、形成外科は他の診療科と重複する治療がいくつもあります。

形成外科の主な診療対象疾患です。

体表面の先天異常

生まれつきある体表の形の異常です。当院では、多指症や合指症といった指の異常、耳の変形、臍ヘルニアへるニア(でべそ)などが対象になります。整形外科、耳鼻科、小児外科などと重複します。

外傷

擦り傷や骨折、熱傷(やけど)などがあります。整形外科も骨折の治療をしますが、形成外科は鼻骨や頬骨骨折など顔の骨折を対象にしています。

腫瘍

ホク口や粉瘤ふんじゆなど、皮膚と皮下のできものを扱い、主に皮膚科と重複します。また、皮膚がんなどの切除で組

織が無くなった場合、形状や機能を再建する目的で手術をすることがあります。

美容外科

以前は美容整形といわれ、豊胸や鼻を高くするなど、整容面(見た目)を特に重視した分野です。病気ではないので保険は使えず自費になります。例外として、現在は、乳がん手術後にインプラントで乳房のふくらみを再建する場合、登録施設であれば保険でおこなうことができます。

当院はしみやしわなど、美肌を中心とした治療のみ行っています。

その他

陥入爪かんにづめ、眼瞼下垂がんげんかまひ、腋臭症あせわしづい(わきが)などの治療も行っています。

「傷痕は消えますか？」と質問されることがあります。皮膚が受けた損傷の深さや状態で違いますが、基本的に縫ったほうが良いと判断された場合は、傷痕として残ります。縫わなくてもいい(縫

えない)浅い傷と判断されても、2週間以内に新しい皮膚で覆えない場合は、傷痕が残ると言われています。2週間以内に新しい皮膚で完全に覆えた場合、傷痕は残らないと言われていますが、しばらく赤みが続きます。また、色素沈着(シミ)のような色(シミ)が出てきた場合は、残ってしまうことがあります。

抜糸後や傷が皮膚で覆われた後、個人差はありますが、傷痕がなじんでくるのに3〜6カ月は必要といわれています。形成外科ではその期間はテープや薬剤などを使用して傷痕が赤く盛り上がってこないように、傷の幅が広がらないように予防や治療を行います。

ここに紹介できなかった内容もありますが、このようなお悩みの方は一度形成外科にご相談ください。